鳥刊 ペンギンタイムズ
アデリー、ヒゲ、ジェンツー

卵を確認するジェンツーペンギン

たまごだけに

# えっ、グッドニュース!?

# 繁殖期！各ペア続々と卵が産まれています！

**オスとメス交代しながら抱卵中！**

9月より始まったアデリー、ヒゲ、ジェンツーの繁殖シーズン。それぞれペアや営巣地を確保し、10月から11月にかけて産卵が確認されている。この時期はどのペンギンも卵を守ろうと必死！卵は約35日でふ化する。もう少しで可愛らしいヒナが見られるかもしれない。

卵はお腹の下あたりにある抱卵斑（ほうらんはん）と呼ばれる羽毛が生えておらず皮膚が露出している部分につけて温める。

普段は卵を抱卵斑につけて覆いかぶさるように温めるため卵を見ることはできない。オスとメスが交代で温めるため、交代のタイミングが卵を見られるチャンス。

## ペンギンの卵をゆでると白身が透明なゆで卵に!?

Polar Guidebook（2023年10月ジャッキー・シモンズ博士著）によるとペンギンの卵をゆでると、我々がよく目にするニワトリのゆで卵のような白色ではなく、卵白が半透明で中の黄身が透けて見えるような状態になるらしい。これは、ペンギンの卵がベナルアルブミン（penalbumin）と呼ばれる糖タンパク質をより多く含んでいるためでペンギンの卵が寒さを乗り切るのを助ける役目を果たしているとのこと。ペンギンの卵には25%のベナルアルブミンが含まれているが、ニワトリの卵には0.01%未満しか含まれておらず、この差がゆで卵の色の違いに表れているようだ。ペンギンは極地だけでなく温帯地域に生息する種もいるが、糖タンパク質の保有率に違いが生じ透明度合いが変わったりするのだろうか？

## 名古屋港水族館の飼育係が南極のアデリー営巣地を見に行った！

第６５次南極地域観測隊として南極に行き、アデリーの営巣地を訪れたときの写真。現在、名古屋港水族館では現地での活動内容などを紹介した特別展「飼育係、南極に行く」が開催されている。

南極でも小石を使って営巣する。他にも死んでしまったペンギンの亡骸さえも巣の材料として利用していた個体もいたとか。

営巣場所が運悪く雪に埋もれてしまうことも。こうなると卵が濡れてしまい、ふ化することはできない。

南極のアデリーペンギンの営巣地ではオオトウゾクカモメが上空から卵を狙う光景も観察された。

## 担当飼育係の声

繁殖シーズンは、ペアや巣の場所を巡って争いが絶えない時期です。今シーズンは1羽のメスのアデリーペンギンがペアを組むオスを決めかねて2羽のオスのところを行ったり来たり。そのせいで散らしていました。オス同士が火花を幸いケガをしたペンギンを出すことなく、最終的には1羽のオスに落ち着いてくれて一安心です。

**名古屋港水族館の最新情報は、公式HP（https://nagoyaaqua.jp）をチェック！**